

景勝地の安全



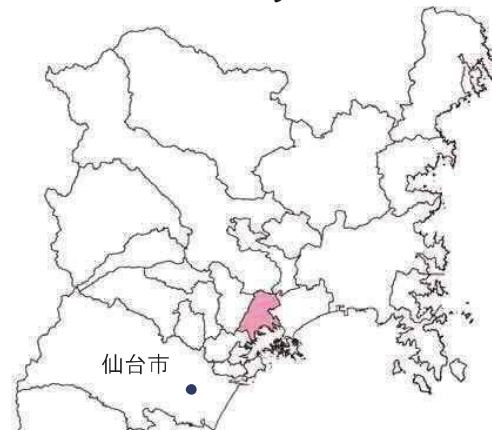
今回の震災において、近隣市町が大規模な被害を受ける中、松島町は湾内の島々に助けられ、壊滅的な状態には至りませんでした。
また、震災の当日に松島町を訪れていた1,200人の観光客は、1人のけが人もなく、全員が無事に帰路につくことができました。
住民の安全・安心はもとより、今後も観光地・松島の自覚と責任を持ち、観光客の安全・安心の向上に向けた取り組みを進めることは、松島町の使命です。

松島湾を一望できる新たな憩いの場ができました
西行戻しの松公園避難所
平成27年9月



観光客で賑わう現在の様子
平成27年9月

松島町



被災の状況



流された自動車が
道路上に点在している
中心部の国道45号



水が引かず、
生々しい痕跡を残す
観光地中心部

利府町では、沿岸部にある浜田・須賀地区が津波によって多くの家屋が浸水による被害を受けたほか、内陸部においても家屋の損壊や道路の陥没、さらには学校等公共施設の多くが損壊しています。

震災からの復旧はもとより、生活基盤と産業基盤の再建、さらには都市構造を再構築し、町民の安全、安心の確保と広域的な復興を支援し、「住んでよかった。住んでみたい。住み続けたい。」と言えるまちづくりを目指します。

あす 未来へつなぐ 「絆」



災害公営
住宅
整備事業

ゆのき地区災害公営住宅
平成26年11月入居

利府町

仙台市



浜田地区避難路
平成29年3月

避難場所・避難所や避難路などの防災機能の再構築と強化により、災害時における町民の安全・安心の確保を図っています。



防災備蓄倉庫を備えた浜田地区避難施設
平成27年9月完成



被災の状況
津波で流された船が国道45号を塞いでいる



須賀地区避難路
平成30年2月

塩 竈 市

仙台市●



津波避難デッキが完成した
港町地区



災害公営住宅用地や
産業用地を整備する北浜地区



復旧し賑わいを取り戻した魚市場



多くの海水浴客が訪れ、賑わいを取り戻した桂島海水浴場
平成27年7月



津波に飲み込まれる魚市場の状況

復活 みなとまちの

塩竈市は、古くから天然の良港に恵まれ、漁港や港湾を活用し「みなとまち」として大きく発展してきました。しかし、発展の礎を担ってきた基幹産業である水産業や水産加工業をはじめ、港湾関連産業、商工業、観光業などは今回の震災によって大きな被害を受けており、その立て直しが急務となっています。地域に活力を取り戻すためにも、これらの市内産業の再生・復興を促進し、地域経済の活性化を図ります。

平成29年7月



「地域のきずな」を重視し、既存の地区内に高台移転団地や災害公営住宅を整備しています。

七ヶ浜町の豊かな自然環境の恩恵を十分に享受しつつ、復興まちづくり事業の推進による地域コミュニティの活性化やにぎわいの創出など、未来志向のまちづくりを推進し、「うみ・ひと・まち七ヶ浜」の再構築と再生に取り組めます。



（昌蒲田浜
平成30年10月）



笹山地区家並みワークショップの様子
新しいまちづくりについて活発な意見交換が行われました。
平成26年10月



七ヶ浜町



仙台市

現位置再建での復旧 そして復興へ

災害公営
住宅
整備事業

多賀城市では、被災者の居住意向や企業の再建意向と本市の立地環境を踏まえ、原則、現地での再建を基本としています。



都市型津波被害

建物が林立し、海が見えない工業地帯や住宅地を襲った津波

1階に駐車場や倉庫を配し、居住スペースを2階以上で計画。各棟をデッキでつなぎ、東日本大震災に伴う大津波と同クラスの津波にも対応できる施設となっています。



災害公営
住宅
整備事業

桜木地区

仙台市

多賀城市

東日本大震災による津波と同規模の津波が襲来しても浸水しないように造成し、製造業の復旧、復興を支えるとともに、災害時の防災拠点機能を備えた市街地整備を行っています。



八幡地区
平成29年7月

東部被災地域の復興と 震災の教訓の発信



防災・減災の意識を高める場とするため、東日本大震災において児童や教職員、地域住民ら320人が避難し、2階まで津波が押し寄せた荒浜小学校を震災遺構として公開しています。

震災遺構仙台市立荒浜小学校



被災市街地復興土地区画整理事業
防災集団移転後の蒲生北部地区において、新たな産業集積を推進するため、業務系土地利用にふさわしい都市基盤の再整備と土地の整理集約を図る土地区画整理事業を進めています。



蒲生北部地区
令和元年12月

内陸側の既存集落および集団移転先の安全確保を図るため、津波の威力を減じる機能を持たせた、盛土高約6mのかさ上げ道路が建設されました。

(令和元年11月 全線開通)



東部復興道路（かさ上げ道路）

令和2年1月



海岸公園利用者等が津波から避難できるよう、市内沿岸部4カ所に避難の丘を整備しました。

避難の丘（藤塚地区）

仙台市

東部地域の13カ所に津波避難施設（タワー型6カ所、ビル型5カ所、津波避難屋外階段2カ所）を整備しました。



新浜津波避難タワー



災害公営
住宅
整備事業

防災
集団移転
促進事業

新たな暮らしのスタート

下増田地区で被災された方々の集団移転先である美田園北地区の復興まちづくり（防災集団移転団地、災害公営住宅）が完成しました。

美田園北地区 平成27年10月



災害公営
住宅
整備事業

被災市街地復興土地区画整理事業

本格化する産業再生・
復興市街地土地区画整理事業

関上地区 令和2年8月



関上まちびらき 令和元年5月26日



関上地区は、江戸時代から栄える関上漁港があり、仙台近郊の漁港町として、職住近接したまちでした。震災後、既存市街地の現地再建及び水産業の復活を目指し、鋭意事業推進中です。

今回の津波被害で、私たちは物理的に防御できない津波の存在を知りました。このような大自然の力と向き合っていくためには、大自然の力を完全に防御するのではなく、災害時の被害をいかに最小限に食い止めるかという『減災』という考え方を基本に、まちづくり、地域づくりを進めていく必要があります。
岩沼市では、「愛と希望の復興」をビジョンとして掲げ、スピード感とコスト意識をもった震災復興に取り組めます。

空が広く 感じられるまち



県内初的大型内陸移転団地である玉浦西地区、沢山の住宅が建ち、新しい町並みが形成されています。

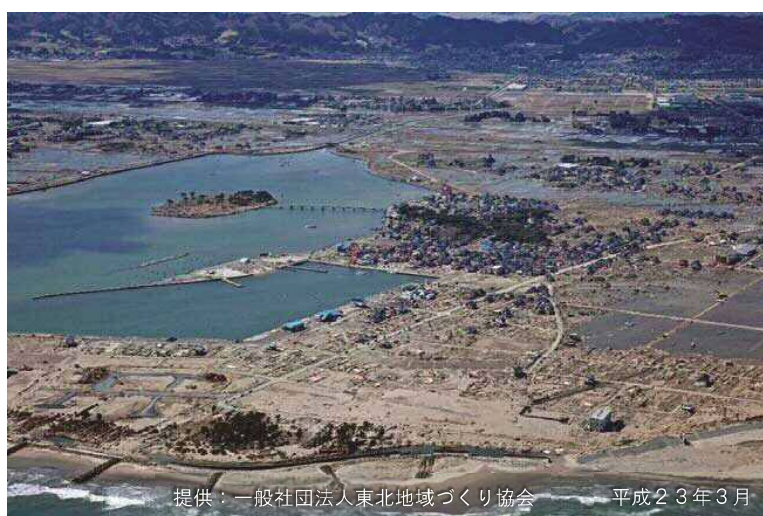
沢山の人が訪れた玉浦西まち開きの様子
平成27年7月19日



津波よけ「千年希望の丘」
沿岸部に津波の力を減衰させる津波よけ「千年希望の丘」を敷設し、津波に取組むとともに、後世の人々へ今回の津波被害の大きさや私たちの想いをつなぐために、「千年希望の丘」を含めたエリアをメモリアルパークとして整備しました。



岩沼市



内陸移転するJR常磐線新駅を中心としたコンパクトシティ

災害公営住宅整備事業

防災集団移転促進事業

分譲宅地での住宅建築が進み、平成28年12月にJR常磐線の運転が再開されました。

新山下駅周辺地区
平成30年7月

防災拠点・山下地域交流センター（ひだまりホール）が完成しました。



新山下駅周辺地区
平成29年11月

全ての世帯が入居を開始し、防災拠点・地域交流センター（ふるさとおもだか館）も完成しました。



新坂元駅周辺地区
平成30年7月

分譲宅地は平成28年12月から引渡しが始まり、災害公営住宅も平成29年3月に全戸完成しました。



宮城病院周辺地区
平成29年2月

コンパクトシティ

山元町は、震災後、被災集落を核となる3つの新市街地へ集約し、うち2地区は内陸移転するJR常磐線2新駅を中心としたコンパクトで持続可能なまちづくりを目指す方針としました。



山元町

産業再生

町特産ホッキ貝の漁が再開

かつての活気を取り戻すべく、被災した漁場からがれき撤去を継続している中で、ホッキ貝漁を試験的に再開しました。



いちごの一大産地として

新たな一歩を踏み出しました

東北でも有数のいちご産地の復活に向けて、計画する4ヶ所全てのいちご団地整備が完了しました。

